

平成30年度第2回東海村（仮称）歴史と未来の交流館展示監修委員会 会議録

1. 日 時	平成30年6月27日（水）13:00～15:00
2. 場 所	東海村役場205会議室
3. 出席者	高橋修委員長，塩谷修副委員長，益子美由希委員，菊池芳文委員，高橋裕文委員，佐々木啓委員，宮内教男委員，萩谷信輝委員，林圭史委員，宮田裕紀枝委員，瓦吹堅委員
4. 欠席者	安嶋隆委員，小野寺淳委員
5. 議 題	(1) 基本展示室①の展示構成表及び図面について (2) 基本展示室②の展示構成表及び図面について (3) その他

主な発言内容等

(1) 基本展示室①の展示構成表及び図面について

(2) 基本展示室②の展示構成表及び図面について

※関連する内容であるため，同時に説明・意見聴取

- ・当初の展示案のためだけの展示ケースの選定や平面配置とするのではなく，後々資料が増えた際に（例えば大型の絵図など）展示可能となるよう検討した方がよい。
- ・土浦の博物館では部屋を仕切るパーティションは全て移動式としたが，これはとても良かったと思っている。基本展示室2は展示替えが困難なつくりになっているのではないかと懸念する。
- ・展示替えの度に造作物が増えることは予算的にも難しいのではないか。
- ・エアタイトのウォールケースはあった方がよい。
- ・まる博テーブルについて，東海村だけでなく周辺も含めた自然環境が分からないとイメージできないのではないか。
- ・「風土」を伝える展示の窓口として，村にはどんな自然や風景があるのかなどを「まる博テーブル」を使えるとよい。
- ・展示室が横につながっているというというのも珍しいかもしれない。片方は開放的な空間でというのも，中々こういう形の博物館はないので，そこをうまくプラスになるようにできると良い。青少年スペースと行き来できるような空間は基本展示室①，博物館らしい展示は②，レベルが高いものは特別展と機能は分かれているが接続が断絶していないようにできるとよい。
- ・特別展示室での企画展は，自然の企画展も計画してほしい。
- ・自然ではマクロとミクロが入ってくる。映像をモニターで見せるのか，実際に顕微鏡で見せるのかということもあるので検討してほしい。
- ・自然系のもので展示できないものを映像として見せられるとよいのかもしれない。
- ・砂防林の映像について，砂に埋もれてくという様子は映像ではうまくイメージできないのでは。模型のようなもので，砂が移動していく様子が分かるような装置を作れるのではないか。
- ・「古文書からみる東海村の人々」はトピックス展としていずれ変わっていくということだが，重要な内容なので常設とした方がよいのでは。近世の部分が抜けてしまう。
- ・学芸員が博物館業務に専念できる体制としてほしい。発掘などの他の業務も行いながらでは加重的なことである。

(3) その他

- ・次回会議は8月30日を予定。
- ・今後個別グループを作るなど、細かい進め方については再度提示する。